



13 美原通り

品川宿と川崎宿の間に位置したこのあたりは、旅人の休憩のために設けられた「間の宿(あいのしゅく)」としてにぎわい、麦わら細工などが土産物として売られていた。近年、商店街では看板や提灯、浮世絵の描かれたシャッターなどを整備し江戸の街並みを演出している。



14 大森と海苔／大森 海苔のふるさと館

江戸時代に海苔の養殖がおこなわれ、浅瀬の広がる大森周辺は大きな産地として発展した。この地で作られた海苔は「御膳海苔」として将軍家などにも納められたという。このエリアには、今も海苔問屋が数多くあり、「大森海苔のふるさと館」では展示や体験などが楽しめる。

【開館時間】9～17時(6月～8月は19時まで)入館無料
【休館日】第三月曜日(祝日の場合は翌日休館)
年末年始(12月29日から1月3日まで)
大田区平和の森公園2-2 ☎03-5471-0333



16 羽田道

美原(三原)通りの内川橋から羽田(弁天橋)に至る約五キロの道。羽田の魚介類や野菜を江戸に運んだり、羽田弁財天等に参詣する人々がこの道を利用した。また歌舞伎に出てくる「駿河屋」という旅籠があったことから「するがや通り」という名が残っている。



19 蒲田梅屋敷

江戸時代に中和散という道中常備薬を商う山本久三郎がこの地に梅の名木を集め、東海道を往来する旅人を相手に茶屋を開き「蒲田梅屋敷」として賑わった。広重の浮世絵にも描かれ、現在は聖蹟蒲田梅屋敷公園と呼ばれている。



歌川広重「東海道五拾三次之内 川崎 六郷渡舟」大田区立郷土博物館所蔵



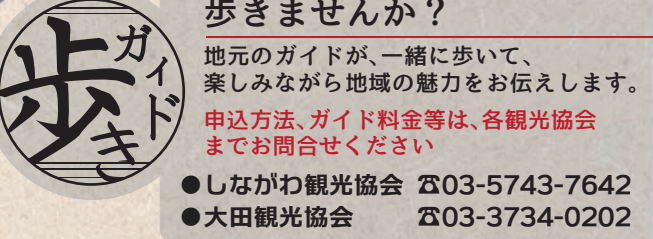
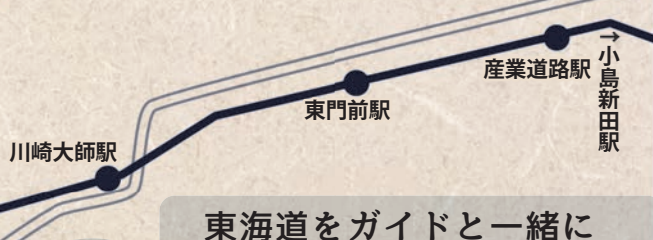
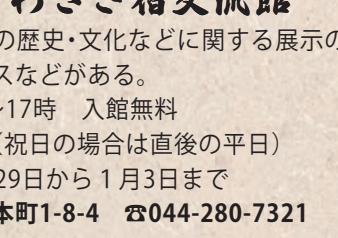
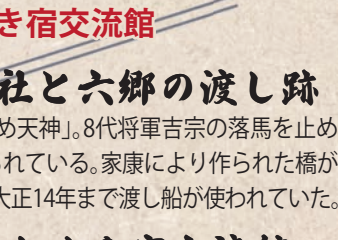
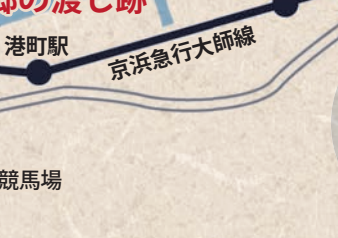
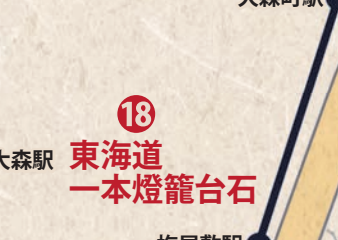
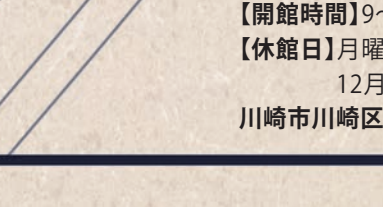
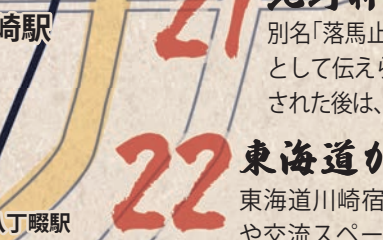
12 磐井神社

延喜式内の古社。東海道往来の旅人も飲んだとされる「磐井の井戸」。心正しければ清水、邪心あれば塩水という言い伝えがある。



15 海難供養塔

海難供養塔としては、東京湾中屈指の規模。台石の銘文には、一般の江戸町民や武士など約300名に及ぶ名が刻まれている。



【東海道】は第一京浜に…
品川区・大田区にある東海道は、昭和2年の拡張工事によって第一京浜国道に姿を変えたが、北品川から鈴ヶ森刑場跡までと美原通りには、当時の面影が残っている。

大森 海苔のふるさと館

海難供養塔

羽田道

厳正寺

京急蒲田駅

大森海苔のふるさと館

海難供養塔

羽田道

厳正寺

京急蒲田駅

大森海苔のふるさと館

海難供養塔

東海道をガイドと一緒に歩きませんか？

地元のガイドが、一緒に歩いて、楽しみながら地域の魅力をお伝えします。
申込方法、ガイド料金等は、各観光協会までお問合せください

●しながわ観光協会 ☎03-5743-7642
●大田観光協会 ☎03-3734-0202



発行：令和元年8月